

わたしたちを支えた  
「100の杖言葉」

わたしたちを支えた「100の杖言葉」

  
株式会社  
AT情報研

 株式会社 AT情報研

創立20周年企画

## 【杖言葉1】

**5年先の自分の姿を想像し、  
今日を生きよ！****① 入社前後**

私が大学を卒業した当時は、第1次オイルショック後の不況の影響で就職は厳しい時代でした。企業は採用を絞り込み、公務員に人気が集まっていた。今でいう「就職氷河期」の走りだった気がします。そんな時にご縁を戴いたのが、金沢にあるコンピュータのシステム設計やソフトウェア開発の情報処理会社。ソフトウェア業界では、SE（システムエンジニア）の「35歳定年説」がまことしやかに囁かれ、それが少なからず採用にも影響していたのでしょうか。私は工学部出身ですが専攻は経営工学科で、どちらかといえばコンピュータは専門外。多少はかじりましたが、特に興味があった訳ではありません。むしろSEという職種に就く事に最初は違和感がありました。当時私は「中小企業診断士」を目指していて、その資格を取る近道になるかもしれない。入社しても勉強は続けるつもりだったのでそう思って門を叩いたのが正直なところ。

ところが、1か月間の入社前研修が終わる頃、突然、システム部の部長に呼ばれて「麻井君、君には兵庫県へ行ってもらうよ」と、いきなり県外勤務を命じられます。同期は8人いたのに、どうして私ともう1人、入社4年目のオペレーターの2人だけが選ばれたのか未だに分かりません。行先は兵庫県にある金融機関でした。今思えば、金融系のシステム設計は当時、人手が足りなかったのでしょう。全国から私のような人

間が沢山来ていました。結局、COBOL（コボルという言語）を組んだだけでしたが、とにかく仕事を覚えるためにがむしゃらに勉強しました。それが、結果的にSEとしての評価に繋がっていくのです。その時に学んだ事は、自分が選んでこの道に入った以上はとにかく一生懸命やる事。自分にはまだ力がないのだから、背伸びをせず、まずは人並み以上に努力すれば、いずれ自分の糧になって返ってくる。それが、1年間の県外勤務で得た教訓です。

## 【杖言葉2】

**ビジネスにおける経営資源とは、  
人・物・金・情報、そして人間関係である。**

その後、本社に戻ってソフト開発の道に進みますが、仕事先は相変わらず県外が多かった。金沢で設計してパッケージ化したものを全国の納入先に持っていく。福島、香川、長野、東京など3~4か月のサイクルで現地に行って納品し、確認テストをして本稼働に立ち会います。宿泊先は6畳1間位のアパート。そこに開発部員3~4人が枕を並べて寝る。当時はそれが当たり前でした。テレビも無い部屋で、週刊誌を買ってきて読んだり、誰かが夜遅くまで仕事の事を話し込んでいると自然にその輪に加わったり。寝起きを共にしながら同じ時間、同じ空気を共有する。そのように3~4か月過ごす事はざらでした。そんな生活が4~5年続いたのでしょうか。今思えば、それが仲間意識やSEの資質を磨く格好の場になった気がします。

会社が地場ユーザーへの営業、販売を担当する人材を選抜する時

に、当時の営業部長はまっ先に私が所属するソフト開発部門から抜擢しました。SEは単にシステムを開発するだけではなく、そのシステムがお客様にとって戦略的にどのようなお役に立つのか、経営者の立場に立ったコンサルテーション能力が問われます。ユーザーの視点に立った提案をするには、経営感覚や営業センスも重要です。そうしたビジネス的な視点や感覚が、仲間と侃々諤々かんかんがくがくやりあう中で自然に磨かれていったように思います。

不思議なのは、そうした仲間や入社1年目に出向していた折、全国から同じ職場に集まっていた人達と、今もずっと付き合いがある事です。出会った人達との人間的な交流が、私自身の企業人としてのベースを形作っている。そんな気がしてなりません。SEとしてシステム設計やソフト開発をするだけではなく、お客様と一緒に企画して、システム提案書を創って、そしてシステムを開発し本稼働まで関わっていく。それが楽しかったし、後々新たなビジネスにも繋がっていく。仲間やお客様との人間関係を大切にしてきた事が、経営者としての私を形成する大きな基礎になったと思っています。

### 【杖言葉3】

## 自分の力量を認め、背伸びをするな！

### ②SE時代(入社5～6年)

ソフトウェア産業は、ある意味人で成り立っている業界です。SEとして仕事が出来るとなると客先の信頼は高まるし、新規の依頼も無い

込みます。ユーザーの経営事情に応じてシステムが組める、生産性や生産効率を高めるためのシステムを構築出来る事は、それだけで大きな武器になります。ですから一人前のSEになればなるほど外部から声が掛かるし、実際、スカウトされたり、自分で起業するために会社を辞める人は珍しくなかったと思います。入社して10年が過ぎた頃、私の周りでも先輩や上司が独立していきました。ちょうどバブル経済の真ただ中、SEとして私を高く評価してくれた上司から「一緒にやらないか」と声を掛けられました。しかし、私は当時、まったくその気がありませんでした。自分にまだ力が備わっていないのに一緒にやっても成功しないし、幸せになれない。そう思ったからです。

その頃SEとしてユーザーを何社か担当していた私は、中小企業のシステムをいくつか構築していました。企業の問題点を探るために開発や営業部門をヒアリングし、時には同行して勉強しました。その際、ある経営診断士と出会います。その人は、県内の優良企業を幾つも担当している人で、なぜかその先生に気に入られて、あるサービスのシステム設計に携わりました。驚いたのは、その先生が書いた経営診断資料です。私が組んだシステム設計の中身が全部網羅されていたのです。その先生は、コンピュータより「カンピュータ」という人で、多分、診断士の資格もなかったと思います。なのに、書かれてある内容がシンプルで、経営の要点を分かり易く、詳細に纏まとめてあり、一目見て「すごい…」と感じ入りました。同時に、中小企業診断士を目指して分かった気になっている自分に、猛烈な恥ずかしさを覚えたのです。仮に資格を取っても、これだけの診断内容を私が書けるかといえば到底、かなわない。その時に、世の中には資格が無くても素晴らしい診断書を書けるプロがいる。資格を持ってしまうと、自

わたしたちを支えた  
「100の杖言葉」

# 人生と向き合う時

小説や歌詞、映画など著作物から引用した杖言葉は、その出典を明記しました。

しかし、出典元以外の作品でも使われている可能性もございます。その場合は、あらかじめご了承ください。

---

※社員の所属や肩書きは、  
平成25年6月1日現在のものです。

## 礼に始まり、礼に終わる

私は9年間、剣道をしていました。その時、先生に教えてもらった言葉です。

剣道の試合や稽古を行う際は、必ず礼から始まり、礼をして終わります。

また、先生や先輩にアドバイスをしてもらった場合も礼をしてアドバイスを聞き、アドバイスをもらった後にも礼をして終わります。なぜ礼をするかというと、剣道には相手を倒す概念は基本的になく、常に相手に尊敬および謙譲の意を伝えるために礼をするとのことでした。

このことは剣道だけに限った話ではなく、普段生活している時にも当てはまることだと思い、常日頃心がけて礼（挨拶など）をしています。なお、上記内容を常に心がけて動作を行っていると気持ちが素直になります。

データベースサービス部 データベースサービス課 **浅野 智行**

## すべて必然である

偶然なんて存在しない。必要だからそうなった。言葉どおりです。

この言葉、こう思っただけでは何も始まりません。

ここからが必要なことで、「何故それがここで必要だったのか？」をあらゆる角度から考え、それまでの流れを思い返します。

そのためには、周りのあらゆる情報が必要になりますし、もちろんさまざまな角度を理解する力も必要になります。

それを行うことで、明確な何かが見えるようになると思います。そして、結構おもしろいことが発見できたりもします。

データベースサービス部 データベース開発課 **池田 誠一**

# プロフィール

創立20周年の記念誌発刊にあたり、社員一人ひとりから杖言葉以外に、AT情報研へのメッセージも募りました。若手からベテランまで社員一同、これからも社名の由来でもある「あなたのために」をモットーに、創造と挑戦を続けます。



**麻井 敏正**

代表取締役

いつも笑顔で「あなたのために」を実践しています。すべての人に感謝しています。ありがとうございます。



**熊谷 泰彦**

取締役  
平成14年入社

会社は起業から1年で4割、5年で6割、10年で8割が倒産するといわれています。そこを乗り越えての設立20周年、大変嬉しく思います。今後も麻井社長の下、ATの未来を築いて行きましょう。



**北村 芳博**

ソフトウェア開発センター  
平成15年入社

早20年。未だ20年。明日のATのために挑戦！



**小井 涉**

第一システム部  
平成13年入社

まだまだ20周年。30周年、50周年を目指そう!!  
あ、でも50周年には定年で会社にはいないか…



**武田 昭人**

第一システム部 ソフトウェア開発第一課  
平成13年入社

変わらぬ社風で。

## PROFILE



**川端 大道**

第一システム部 ソフトウェア開発第一課  
平成14年入社

50周年を迎えられるように、今後もみんなで成功しましょう。



**橋本 啓央**

第一システム部 ソフトウェア開発第一課  
平成16年入社

「まだ20年、まだまだ先は長い」と考え、頑張っていきます。



**角 健史**

第一システム部 ソフトウェア開発第一課  
平成21年入社

次は50周年目指して頑張りましょう。



**浅野 喜朗**

第一システム部 ソフトウェア開発第一課  
平成23年入社

20周年おめでとうございます。  
今度は30周年でも同じ言葉を言えるようになればいいと思います。  
そのためには、会社も自分も精進あるのみ！ですね。



**坂野 仁美**

第一システム部 ソフトウェア開発第一課  
平成24年入社

おめでとうございます！そして、これからもよろしくお祈いします！



**松本 大輔**

第一システム部 ソフトウェア開発第二課  
平成8年入社

次の20周年までに自社ビルを!!